

目利きが選ぶ3冊

がんの消滅

芹澤健介著、小林久隆医学監修



(新潮新書・924円)

注目の治療法巡るドラマ

サイエンス作家 竹内 薫

がんの確立した治療法としては、いわゆる標準治療と呼ばれる「外科手術」「放射線療法」「化学療法」と、(ノーベル生理学医学賞を受賞した本庶佑先生の)オプジーボで有名な「がん免疫療法」がある。

本書は、第5のがん治療法として注目されている「光免疫療法」を扱っている。米国立衛生研究所(NIH)主任研究員の小林久隆先生が開発した夢の治療法だ。がん細胞以外は破壊しない、9割のがんに適用できる、そして、何度でも治療できるといったメリットがある。

もともと、がん細胞だけと結びついて、がん細胞を光らせる物質の研究をしていたところ、IR700という物質に光を照射すると、がん細胞が壊れることがわかった。比喩的には、小さな爆弾(IR700)をがん細胞だけに送り届け、それからスイッチを入れて(光を照射して)爆破する仕組みだ。

小林先生が、日本ではなくアメリカで研究を続ける理由、楽天の三木谷浩史さんがこの治療法に賭ける理由など、医学を巡る人間ドラマにも心を打たれた。